

## 令和 2 年度放射線安全取扱部会年次大会 (Web 開催)

### 特別企画「コロナ禍での放射線安全管理」アンケート調査のまとめ (速報版)

企画専門委員会

#### 1.はじめに

令和 2 年度放射線安全取扱部会年次大会は、初の Web 開催となりましたが、企画専門委員会では特別企画としてコロナ禍での放射線安全管理アンケートを実施いたしました。コロナ禍での放射線施設の取り組み、対応に関して調査報告し、「第 2 波」への備えとして放射線管理に携わる皆様と情報共有を目的としています。

#### 2. アンケート概要

調査期間：2020 年 11 月 2 日～30 日

調査方法：Google Forms を利用

回答率：13% (年次大会参加者 297 件、回答数 37 件)

#### 3. アンケート結果 (速報版)

回答が得られた施設の所在地は関東地区がおよそ半数を占め、施設利用者の所属は、医歯薬学系が 22 件 (59%) と最も多く半数以上を占め、使用線源は非密封放射性同位元素が 33 件 (89%) で最も多かった。

4 月～5 月にかけて発令された緊急事態宣言中での運営状況については、注意喚起をして通常通り稼働していた施設が 43%、時間短縮、立ち入り制限、施設閉鎖などの具体的な利用制限をした施設の合計は 49%であった。行われている注意喚起としては、手、指の消毒用具の設置、咳エチケットの励行、定期的な施設・機器の消毒、利用者・管理者の体調確認といった感染症対策がとられていた。施設利用状況については、緊急事態宣言中 40%の施設において利用頻度が減少していたものの、解除後は 19%程度まで回復していた。

放射線管理実務に関するアンケートでは、RI 管理や線量測定といった現場での業務が必要であるためか、緊急事態宣言中でも半数近くが通常通りの勤務状況であったが、複数の管理者がいる施設ではローテーションでの在宅勤務も比較的多く取り入れられていた。

教育訓練に関しては、通常通り実施できた施設は新規で 11%、再教育で 3%と僅かであり、各施設が感染防止に努めながらの実施に苦労している様子が伺えた。動画、資料、テスト等の配信で開催する施設が半数近く占めており、人数制限した上での実施や Zoom 等によるリアルタイム開催を行った施設もあった。

以上、新型コロナウイルス感染症によって既存の放射線安全管理をそのまま実施することが難しい状況ではありますが、一方でニューノーマル時代の放射線管理に向けた新たな取組に関する回答も挙げられており、このアンケートが皆様の日々の活動に少しでもお役に立ちますと幸いです。